

休校期間中の生徒の皆さんへ

2020年9月26日

理事長・チャプレン

井上良作

ダビデは更に言った。「獅子の手、熊の手からわたしを守ってくだした主は、あのペリシテ人の手からも、わたしを守ってくださるにちがいません。」サウルはダビデに言った。「行くがよい。主がお前と共におられるように。」サウルは、ダビデに自分の装束を着せた。彼の頭に青銅の兜をのせ、身には鎧を着けさせた。ダビデは、その装束の植にサウルの剣を帯びて歩いてみた。だが、彼はこれらのものに慣れていなかった。ダビデはサウルに言った。「こんなものを着せたのでは、歩くこともできません。慣れていませんから。」ダビデはそれらを脱ぎ去り、自分の杖を手にとると、川岸から滑らかな石を五つ選び、身につけていた羊飼いの投石袋に入れ、石投げ紐を手にして、あのペリシテ人に向かって行った。
(旧約聖書 サムエル記上 17章 37～40節)

2週間の休校期間、皆さんはどのように過ごしていますか。パンデミックは私たちの日常からたくさんものを奪ってしまいます。私たちの2学期の学校生活からも、予定して待ち望んでいたことや日々の鍛錬を積み重ねて備えてきたものを奪っていきました。私はとても悔しく、やりきれなさを感じています。おそらく、皆さんは私以上にそれを感じているだろうと思います。しかし、今日、誰もがウイルス感染に罹る可能性があり、どんなに注意していても避けられないということがあるのです。

休校期間になる前、私は子どもと一緒に、『弱虫ペダル』という映画を観ました。これは人気漫画の実写版だそうです。主人公の小野田坂道君は大のアニメファンで千葉県の郊外からアニメの聖地・東京の秋葉原までの何十キロもの道のりを毎日ママチャリをこいで通っていました。アニメへの愛からそんな遠い道のりも全く苦にならなかったのです。しかし、その毎日の秋葉通いが彼を急斜度の登り道において驚異的なスピードを発揮する自転車競技選手に育てていました。自転車競技の名門校に入学した彼はアニメオタクから一転、仲間と共に全国制覇を目指すアスリートへ成長していくという、奇想天外なお話です。人は好きなことに熱中しているときどんな努力も苦にならず、自分でも気づかないうちに鍛えられて能力を伸ばしている、ということがあるのだなと私は考えました。

さて、上の聖書の言葉は、古代イスラエルで最も愛されたダビデ王の少年時代の場面です。当時、サウル王とイスラエル人たちはペリシテ人との戦いを繰り返していました。神から遣わされた預言者サムエルはエッサイ家の末息子で羊飼いをしていた少年ダビデに目をとめてこれに油を注ぎました。ダビデは堅琴が巧みでこれを奏でるとサウル王の苦しむ心は安まりました。ペリシテにはガト出身のゴリアトという大男で最強の兵士がいてイスラエル

兵たちは恐れ縮み上がっていました。戦いに参加していた兄たちに食料を届けるために戦陣をおとずれたダビデは、ゴリアトの挑発を聞いて奮起し、その挑戦を受ける者として名乗り出ました。ダビデはサウル王の鎧と武器を与えられて身にまといましたが、着慣れていない借り物の武具では闘うことはできないとこれを脱ぎ、普段、自分の羊を獅子や熊から護っている杖と石投げ紐だけを持ってゴリアトに立ち向かいました。石投げ紐で投じた石はゴリアトの額に命中し、ダビデはゴリアトの首をとり、イスラエルはペリシテ軍に勝利しました。この時以来、ダビデは王への階段を上り、ダビデの治世下にイスラエルは最も繁栄し都はエルサレムに据えられました。

少年ダビデの日常は羊を飼うことでした。お兄さんたちのように兵士となって活躍することも許されていませんでした。来る日も来る日も、彼は野原や山々で羊を飼う毎日です。街での暮らしに比べてとても退屈で過酷なものであったでしょう。彼がしていたことは野獣に襲われたときに備えて石投げ紐の技を一撃必殺のごとく磨き上げることと、豎琴を奏でて自分や羊たちを安らがせることだけでした。しかし、自分の羊たちをとっても愛していたので苦ではありませんでした。そして、神様は自分の賜物を丹念に磨いていたダビデをこそという場面で用い、さらに大きな仕事を任せました。

「チャンスは準備のできた者に訪れる」という言葉があります。学業やスポーツ、仕事でもそう思われることが多々あります。コロナ禍で学校生活を奪われ、私たちは何とも言えない、やるせない日々を過ごしているかもしれません。しかし、こんな日々にも意味はあるのだと思います。もしかすると、この期間に皆さんが好きで楽しんで取り組んでいること、毎日黙々と磨いていることがみなさんの将来に思いもよらない大きな力となると私は思います。そういうことに思い切って挑戦してみてもよいのではないのでしょうか。

パンデミックを経験し乗り越えようとしている若者の皆さんはとても強いと私は思います。この経験も必ず将来に生かされ、皆さんにも幸いで輝いている未来があると私は信じます。今のこの時もどうか活かしてください。学校で皆さんに会う日を楽しみにしています。